

令和2年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

- 工業・商業系列等を持つ総合学科として、多様な進路実現を可能にし、生徒が夢を実現できる学校、地域・保護者から厚く信頼される学校をめざす。
1. 「探そう 東総 明日の自分！」をキーワードとしてキャリア教育・職業教育を力強く推進する学校。
 2. 「基礎的・基本的な知識・技能の習得と主体的な活用」を目標に授業で鍛える学校。
 3. 「よりよい社会を切り拓いていく人間」をめざし、学校・家庭・地域等が一体となり、多様な他者との共有を図り、教育活動を展開する学校。
 4. 「目標達成に向け意欲的に取り組む学校運営体制」を確立し、府民の期待に応えられる学校。

2 中期的目標

- 1 確かな学力の育成と主体的・対話的で深い学びの実現
 - (1) 総合学科の特長を生かした系列の編成と実業教育・キャリア教育を推進し、3年間の学びで総合的な学力を育てる。
 - ア、3年間の体系的なキャリア教育プログラムを発展させる。
 - イ、外部人材・外部組織の積極的な活用やインターンシップの拡充により、実業教育の充実に努め、資格取得を促進する。
 - ウ、四年制大学のAO入試・公募制入試・一般入試を視野に入れ、進学指導を充実させる。
 - *進路実現については、進路未決定率を引き下げ、令和4年度には0%をめざす。(H30:2.2%、R1:0.9%、R2:0.9%)
 - 4年制大学進学者数を引き上げ、令和4年度には50人以上をめざす。(H30:32名、R1:37名、R2:31名)
 - (2) 学ぶ姿勢を確立し、基礎・基本の習得を中心に「確かな学力」の育成に努めるとともに、その主体的な活用をめざす。
 - ア、情報の入力(読む、聞く)、処理(まとめる:情報の整理、関連づけ、課題発見、課題解決策の提示等)、出力(書く、話す)能力を育成するため、探究活動の推進をはかる。
 - イ、学校経営推進費を活用した「TRY ルーム」等を活用し、グループ学習を充実させ、生徒の「書く」「話す」能力を育成することで、本校のキャリア教育をより進化させる。
 - (3) 確かな学力の育成と主体的・対話的で深い学びの実現のための「魅力ある授業づくり」をめざして、授業改善に組織的に取り組む。
 - ア、学力向上プロジェクトチーム(GPT)を中心に、本校のめざす授業について考察し、教員相互の授業見学の機会を促進させる。
 - *学校教育自己診断の「学習指導に関する」項目の生徒評価を、令和4年度には、75%以上にする。(H30:69.6%、R1:72.7%、R2:75.2%)
 - イ、資格取得を系列・教科の学習の1つの目標とすることで、将来を見通した学力を育成し進路実現につなげる。資格取得プロジェクトチーム(SPT)を中心に、多様な資格の情報を提供し資格取得のための講習や補講を行う。
 - *ボランティア、インターンシップ等の学外活動と3年間の資格取得者の割合を増やし、令和4年度には75%以上に増やす。(R1:68.0%、R2:69.6%)
- 2 社会とつながる力の育成
 - (1) あいさつ、服装、遅刻、清掃などの指導に全教員で取り組み、基本的生活習慣を確立させ、規範意識を育む。
 - (2) 体育祭・文化祭等の行事を通して、クラス活動や各種委員会活動で生徒会活動の活性化をはかる。
 - (3) 部活動の種類と質を充実させるとともに、地域行事、学校説明会・オープンスクール等でのボランティア活動の機会を増やし、生徒力のより一層の活性化をはかる。
 - ア、部活動活性化プロジェクトチーム(BPT)を中心に、部活動の活性化をはかり、地域の行事等に積極的に参加する。
 - *令和4年度までの3年間、引き続き中退率を1.0%以下にする。(H30:10名・1.4%、R1:6名・0.9%、R2:7名・1.0%)
 - *部活動加入率を増やし、令和4年度には50%にする。(H30:47.0%、R1:46.4%、R2:49.3%)
 - (4) 道徳教育推進教師と人権教育推進委員会の連携を通して、道徳教育、人権教育を推進する。
 - (5) 国際交流の推進
 - ア、「よりよい社会を切り拓いていく人間」をめざし、多様な価値観を持つ他者と調整しながら物事を前に進める力(他者共有力)を育成するため、韓国をはじめとした諸外国との学校交流を推進する。
- 3 地域連携と広報活動の充実
 - (1) 保護者面談や適宜の家庭訪問によって家庭との日常的な信頼関係を築くとともに、保護者メーリングリスト等によって学校情報の確実な伝達をめざす。
 - (2) 中学校教員対象説明会や中学校訪問により生徒情報を把握し指導に生かすとともに、平野区や子供相談センター等と連携し生徒の就学保障につとめる。
 - (3) ホームページの更新、オープンスクール等の充実、近隣の小中学校への出前授業の実施等により、学校の情報や魅力の発信に努める。
 - (4) 地域公開講座・PTAバザー等を継続して実施し、地域行事等への教職員と生徒の参加を積極的に支援する。
 - ア、広報プロジェクトチーム(KPT)を中心に、中学校の教員、中学生、保護者や地域への効果的な広報活動について見直し、検討する。
 - *学校説明会・オープンスクールへの参加者を増やし、令和4年度には、650名をめざす。(H30:637名、R1:597名、R2:677名)
- 4 生徒を支える校内体制の充実
 - (1) 首席連絡会や運営委員会、職員会議等の各種会議の連携を強化し、分掌・学年が情報を共有、協力して迅速に課題解決にあたることのできる体制を整える。
 - (2) SCや支援教育コーディネーターを活用し、教育相談委員会・生徒支援委員会との連絡を密にし、各学年との連携体制を機能させる。
 - *学校教育自己診断「各分掌や各学年間の連携が円滑に行われ、有機的に機能している」の項目教職員評価を増やし、令和4年度には70%にする。(H30:56.9%、R1:46.8%、R2:57.9%)
 - (3) 自己と他者を認め合いお互いに協力しあえる雰囲気づくり(生徒間、教職員間、生徒・教職員間ともに)を全教職員が意識する。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔令和2年12月実施分〕	学校運営協議会からの意見
<p>【学習指導等】</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業への工夫について、生徒の肯定的回答は、「授業はわかりやすく楽しい」の項目で昨年より 2.2 ポイント増加し 60.6%、「学習意欲に応じた学習指導の方法や内容の工夫」の項目で同じく 3.4 ポイント増加し 74.4%、「教え方に工夫している先生が多い」の項目で同じく 3.7 ポイント増加し 73.4%であった。 学力向上プロジェクトチーム（GPT）を今年度は「授業研究」「ICT 機器活用研究」「放課後学習」の3つのチームに細分化し、オンライン授業委員会の役割も担いながら、主体的に活動し教員研修の機会を増やしたことが肯定的回答の増加につながったと思われる。 <p>【生徒指導等】</p> <ul style="list-style-type: none"> 教育相談体制の充実については、日頃から教育相談室と保健室の連携を図るとともに、教育相談支援委員会を月1回開催（SC 同席）し、生徒を支援した。教育相談体制の整備についての教員の肯定的回答は 5.9%増加し 93.0%と高い数値。また、「教育相談」についての生徒の肯定的な回答も昨年度より 1.7 ポイント増加し、71.0%となった。 一方、生徒指導について、生徒の肯定的な回答は、5項目全て昨年度より増加し、5項目の平均値で昨年度より 3.5%増加し 76.3%となった。引き続き、生徒の意見を聞きつつ、生活規律や学習規律などの基本的習慣の確立に力を入れていく。 進路指導について、生徒の肯定的な回答は、2項目全て昨年度より増加し、2項目の平均値で昨年度より 3.7%増加し 86.0%となった。教員の肯定的な回答も高く、きめ細かい進路指導が行われている。 <p>【学校運営】</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校運営について、教員の肯定的回答は、「各種会議が意思の疎通や意見交換の場として機能している」の項目が昨年度より 0.9 ポイント減少し 49.1%、「学校運営に教職員の意見が反映されている」の項目が 0.8 ポイント減少し 61.3%であったが、「各分掌や各学年間の連携と有機的機能」の項目は 11.1 ポイント増加し 57.9%であった。 校長としては教職員の意見にしっかり耳を傾けつつ、学校運営が有機的に機能するよう判断を下していく。 各種会議が、教職員間の相互理解と信頼関係を基に、意思の疎通や意見交換の場として有効に機能するように働きかけるとともに、各分掌と学年との連携などにも目を配りながら、生徒のために教職員が知恵を絞り、教職員自身が主体的・能動的に教育活動を展開できるよう支援していく。 各学年間の連携は年次主任会議の定着によりスムーズに行われている。 「校内研修は、教育実践に役立つような内容となっている」の項目では教員の肯定的回答は、昨年度より 9.7 ポイント増加し 80.7%、「校内研修組織の確立と計画的な研修の実施」の項目では同じく 11.6 ポイント増加し 84.2%であった。学力向上プロジェクトチームやオンライン授業委員会の取組みにより、肯定的回答の増加につながったと思われる。 「事故、事件、災害等に対する迅速な対応と役割分担の明確化」の項目では教員の肯定的な回答は、昨年度より 4.8 ポイント増加し 80.7%であった。 	<p>第1回（7/28）</p> <p>○学校の現状及び令和2年度学校経営計画について</p> <ul style="list-style-type: none"> 大学も良い学生を求めている。学生全体の数も減ってきている中で東住吉総合高校は工業の伝統を生かして就職、進学に力を入れている。今後も引き続き取り組んでいただきたい。 新型コロナウイルス感染症に関連して学校行事等の取り組みについての質問 ⇒ 11月に体育祭を実施予定（例年6月に実施）、12月に修学旅行の予定（10月保護者説明会） 生徒が系列を選ぶところから学校としてサポートしてもらっており保護者としては安心している。 系列の指導で社会に出てから役立つことも教えてもらっており出口の保障をいただいている。 地域としても学校と連携しながら様々な面で見守っていききたい。 「総合的な探究」の時間の取り組みについての質問。 ⇒ 自分の興味関心に基づくテーマで探究を行い、2年次では「総合的な探求α」、3年次では「総合的な探求β」で実施。 東住吉総合高校は年々良くなってきている。地元で愛される学校として頑張りたい。 <p>第2回（10/1）</p> <p>○授業を見学して</p> <p>☆授業実践者からの意見</p> <ul style="list-style-type: none"> 体育の授業でバレーボールのラリーを続けさせることが難しい。ネットの高さを低く設定することで、バウンドを認める特別ルールの設定や、滞空時間が長いソフトバレーボールを使用する場合もある。生徒は少しずつラリーが続くようになってきている。 <p>☆各委員からの感想・意見</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒は、明るく元気で前向きに頑張っていて雰囲気が良い。しっかり、話を聞く姿勢ができています。 体育については、服装や集合がきちんできています。普段からの指導がしっかりできています。 生徒は、先生の言うことを納得して授業に参加できています。 コロナの影響でどんな状態の授業になっているか心配であったが、どの授業も教師と生徒との信頼関係ができていて、雰囲気が良かった。 授業は、和気あいあいとしていて楽しく授業を見学することができた。 楽しすぎるだけでなく、締めるところは、きちんと締めないと力をつけるのが難しい科目もある。生徒の状況に応じて進めていく必要性も感じた。 電気実習は専門の授業でもあり、将来その分野に進む生徒が集まっているので、興味を持って真面目に取り組んでいる。 学校教育自己診断の結果の中で「わかりやすく楽しい」などの肯定感が、少しずつ上がっているというのが授業の中に出ている。 コロナの影響もあると思うが全体的にも東住吉総合は良くなってきている。今後もさらに授業改善の取り組みを進めていただきたい。 <p>☆その他、各委員からの質問についての回答等</p> <ul style="list-style-type: none"> ICT 機器については比較的多くの教員がモニターやプロジェクター等を活用し授業を行っている。WiFi（ワイファイ）環境については国の事業により整備予定。 オンライン授業委員会の先生方を中心にオンライン授業に対応した ICT 機器の活用を進めている。 今後は、学力向上プロジェクトチームの ICT 機器活用研究プロジェクトチームの先生方を中心に研究授業、研究協議、総括を行う予定。 オンライン授業については、生徒との送受信体制は全ての教員でできており、動画を活用した授業を実践している先生もいる。オンライン授業については教職員全体で取り組んでいく。 新型コロナウイルスの影響で行事計画については変更を余儀なくされた。今後は台風や PCR 検査陽性者が出た場合など、府教育庁と協議しながら調整していく。 生徒が今学んでいる知識・技能を人生や社会にどのように生かしていくのかという学びの主体性が大切。今後も「社会との関わり」を意識した学びのために助言いただきたい。 <p>第3回（2/17）</p> <p>○学校教育自己診断について</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒の肯定感が年々上昇している。このまま頑張してほしい。 コロナ禍の中で体育祭が実施できたことが生徒の達成感につながった。 生徒が教師を信頼しているのが感じられる。 生徒との対話を大切にしながら向き合う中で生徒の力が引き出されている。 生徒の前向きな気持ちを受け止めながら生徒と教師のコミュニケーションがとれている。 今年度は新型コロナウイルス感染症の影響で文化祭が中止されるなど保護者の来校が減った。 <p>○分掌・年次報告について</p> <ul style="list-style-type: none"> コロナ禍の中、各分掌、学年で新たに判断することや工夫することを考えた。

府立東住吉総合高等学校

	<ul style="list-style-type: none"> ・体育祭や修学旅行を実施することができたことは、生徒にとっても満足度が高かった。 ・今年度は、学校説明会やオープンスクールのサポーター等、生徒もできることに取り組んだ。 <p>○令和2年度学校評価及び令和3年度学校経営計画「めざす学校像」「中期的目標」について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全体的に肯定感が増加していて良くなっている。様々な改善がなされ教員も工夫されていることが感じられる。 ・コロナ禍の中で先生方には本当によく頑張ってもらっている。先生方の努力が生徒の肯定率に表れている。
--	--

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
<p>1 確かな学力の育成と主体的・対話的で深い学びの実現</p>	<p>(1) キャリア教育の推進 ア、体系的キャリア教育プログラムの充実</p> <p>イ、資格取得の促進と実業教育の充実</p> <p>ウ、進学指導の充実</p> <p>(2) 生徒の学力の現状把握とニーズに合った授業の実践 ア、ICT を活用した授業の推進</p> <p>イ、政治的教養を育む教育の推進</p> <p>ウ、芸術系3科目合同卒業制作発表会の実施</p> <p>(3) 「魅力ある授業づくり」をめざした授業改善 ア、授業アンケートの有効活用</p> <p>イ、教育内容の充実</p>	<p>(1) キャリア教育の推進 ア・「TRY ルーム」をキャリア教育の拠点とし、キャリア教育プログラムの取り組みを一層充実させ、生徒の進路意識の早期の向上に努める。 ・学校マネジメント予算等を活用し、フィールドコア平野をはじめ地元企業などの外部人材と連携した、キャリア教育を実践し、進路指導を充実させる。 ・国際、文化、表現などの分野を視野に入れ、「文化と教養系列」のあり方を系列長を軸に模索し、キャリア教育の推進をはかる。</p> <p>イ・資格取得を系列・教科の学習の1つの目標とし、資格取得プロジェクトチーム(SPT)を中心に、多様な資格の情報を提供し、長期休業中等を活用した資格取得のための補習・講習をさらに充実させ、質の高い資格に挑戦させる。</p> <p>ウ・AO入試・公募制入試・一般入試を視野に入れ、「英数系列」のあり方を系列長を軸に模索し、生徒に対する講習を充実させながら、進学指導を拡充させる。 ・「TRY ルーム」を講習や放課後自習室として開放することにより、進路実現に導く。 ・教育産業の基礎力診断テスト、模試を各学年全員に実施し、自己の学力の到達度を客観的に知ること、進学意識の向上と受験学力の育成に1年次から取り組ませる。</p> <p>(2) 生徒のニーズに合った授業の実践 ア・教育産業による学習動画配信サービス等を活用し生徒の学習習慣の定着をはかる。 ・教育産業による学力分析システム等を活用し、生徒の学力の経年変化を把握する。 ・学力向上プロジェクトチーム(GPT)を中心に、確かな学力の育成と主体的・対話的で深い学びのための実践方法を模索する。 ・「探究」を視野に入れた課題研究やアクティブ・ラーニングなどの主体的・対話的で深い学びを各教科で実践する。 ・ICT 機器を有効に活用して授業ができる教員を増やすことで、教材の共有化をはかり、教材研究にかかる時間の短縮をすすめる。 ・年2回の公開授業週間などを活用し、教員相互で授業観察を行い、観察シートを提出する。</p> <p>イ・生徒会と社会科が協力して、授業を組み立て、平野区の選挙管理委員会との連携を図って実践する。</p> <p>ウ・音楽Ⅲ、美術Ⅲ、書道Ⅲ選択者合同の卒業制作発表会を通して、主体的・対話的で深い学びを実践する。</p> <p>(3) 「魅力ある授業」をめざした授業改善 ア・年2回の授業アンケートを実施し、振り返りシート・授業見学をもとに授業改善に取り組む。 イ・学力向上プロジェクトチーム(GPT)を中心に、ICT の活用や主体的・対話的で深い学びの実践などに関する校内研修(「パッケージ研修支援」の活用など)を計画して教員同士の授業観察を促進し授業改善に取り組む。</p>	<p>(1) ア・学校教育自己診断「系統的なキャリア教育を行っている」の項目教職員の肯定率を引き続き80%以上を維持する。(令和元年度80.6%) ・就職一次試験の内定率引き続き80%以上を維持する。(令和元年度84.3%) ・進路未決定率を引き続き3.5%以下を維持する。(令和元年度0.9%)</p> <p>イ・ボランティア、インターシップ等の学外活動と3年間の資格取得者の割合を2%増やし、70%以上にする。(令和元年度68.0%)</p> <p>ウ・中堅大学合格者を含め、4年制大学合格者45名以上。(令和元年度37名)</p> <p>(2) ア・学校教育自己診断「教え方に工夫をしている先生が多い」の項目生徒肯定率70%以上。(令和元年度69.7%)</p> <p>・ICT 機器を有効に活用して授業ができる教員82%以上。(令和元年度80.7%) ・教員の相互授業観察件数引き続き50件以上(令和元年度51件)</p> <p>(3) ア・振り返りシートの提出率、1・2回とも85%以上(令和元年度1回目89.5%、2回目87.7%) イ・授業アンケートの平均値3.30以上。(令和元年度3.16)</p>	<p>(1) ア・「フィールドコア平野」をはじめ地元企業などの外部人材と連携したキャリア教育により、肯定率は93.5%、生徒肯定率は86.3%に上昇した。(◎◎) ・コロナ禍であるが実業系の就職が強く、一次内定率は79.8%(○)※コロナ ・進路未決定率は、0.9%。(○)</p> <p>イ・今年度はコロナ禍で中止もあったが149名・69.6%。(○)</p> <p>ウ・今年度4年制大学合格者は31名。学力向上PT内、英数塾の取組みで、基礎力診断テスト国数英合計点において85%の生徒が第1回と比較して第2回が向上。しかし新型コロナウイルスの影響下で、本校の実業系の就職状況の強さが、進学希望の生徒を就職へと向かわせた。(一)※コロナ</p> <p>(2) ア・主体的・対話的で深い学びを各教科で実践した。「教え方に工夫をしている」の生徒肯定率は73.4%に上昇。(◎) ・ICT 機器を有効に活用して授業ができる教員は85.5%に増加した。(◎) ・若手教員の授業公開などで授業観察を実施した。教員による授業観察件数は65件(◎)</p> <p>イ・政治的教養を育む教育は完全に定着。今年度は大阪府民に取って必要な政策のマニフェスト作成、演説、模擬選挙。非常に効果的な主体的・対話的で深い学びとなっている。(◎)</p> <p>ウ・同様に完全に定着。深い学びとなっている。(◎)</p> <p>(3) ア・提出率第1回87.5%、第2回87.5%。(◎) イ・GPTを中心に「魅力ある授業」をめざし、オンライン授業への対応、ICT の活用及び授業見学・意見交換会(1/25-1/29)等を</p>

府立東住吉総合高等学校

				実施したことで、「教え方に工夫をしている先生が多い」の生徒肯定率は 73.4%で目標値（前掲）を達成し（◎）、授業アンケートの平均値は第1回が 3.31、第2回が 3.32 で平均値が 3.32。 (○) 引き続き校内研修の充実を図る。
2 社会とつながる力の育成	<p>(1) 基本的な生活習慣の確立と規範意識の育成 ア、生徒指導部を中核とした指導体制の充実</p> <p>(2) 生徒会活動及びクラス活動の活性化 ア、体育祭、文化祭実行委員会の活性化</p> <p>(3) 部活動の充実 ア、部活動の活性化に向けた取り組み推進</p> <p>(4) 人権教育と道徳教育の推進</p> <p>(5) 国際交流の推進</p>	<p>(1) 基本的な生活習慣の確立と規範意識の育成 ア・年度初めに、生徒指導事例研修を行い、校内で統一した指導体制を再確認する。 ・遅刻指導・頭髪指導は年間を通して計画的に実施する。 ・遅刻者への早朝指導、放課後指導の中で、「時間の大切さ」を自覚させ、遅刻常習者を減少させる。 ・清掃指導を充実させ、生徒の清掃当番を確立し校内美化に努める。</p> <p>(2) 生徒会活動及びクラス活動の活性化 ア・生徒会部創設4年目で進化をとげてきた生徒の自主性を尊重し改善を加えながら、さらによりよい活動・行事へと発展させる。 ・体育祭・文化祭については生徒の主体性を喚起しつつ、地域への一般公開を実施する。 ・生徒の各種委員会の活性化をはかる。 ・学校行事への生徒サポーターの参加を促進する。</p> <p>(3) 部活動の充実 ア・部活動活性化プロジェクトチーム（BPT）を中心に、体験入部、部活動の活動や発表の「見える化」、運動部の中学生向け「東総カップ」、合同部活動・練習など、本校の部活動について検討する。 ・本校 HP へ部活動の活動状況の更新を迅速にする。 ・部活動活動方針に則り活動を行う。</p> <p>(4) 人権教育と道徳教育の推進 ・道徳教育推進教師と人権教育推進委員会の連携を通して多様な手法により人権ホームルーム等の充実をはかり、人間としての在り方生き方についての考えを広める。</p> <p>(5) 国際交流の推進 ・韓国をはじめとした諸外国との学校交流を推進する。</p>	<p>(1) ア・年間遅刻総数 2000 件未満。 （令和元年度 2126 件） ・学校教育自己診断「生活規律や学習規律などの基本的な生活習慣について」の項目生徒肯定率 77%以上。 （令和元年度 74.5%）</p> <p>(2) ア・学校教育自己診断「生徒会活動は活発である」の生徒肯定率 70%以上。 （令和元年度 66.4%） ・文化祭、体育祭に関する生徒肯定率 80%以上。 （令和元年度 78.0%）</p> <p>(3) ア・部活動加入率 50%以上 （令和元年度 46.4%） ・「部活動に積極的に取り組んでいる」の項目生徒肯定率 65%以上。 （令和元年度 60.8%）</p> <p>(4) ・「授業などで豊かな心や人の生き方について考える機会がある」の項目生徒肯定率 73%以上。（令和元年度 72.1%）</p> <p>(5) ・学校交流後の事後アンケート「生徒満足度」の項目生徒肯定率 80%以上。</p>	<p>(1) ア・今年度 1809 件。コロナの為単純比較はできないが（◎） ・「基本的な生活習慣」に関する生徒肯定率 76.3%で、わずかに届かず。（△）年次と連携し年次間で統一した指導の充実を図る。</p> <p>(2) ア・生徒活動についての生徒肯定率は 72.3%に上昇。（◎） ・生徒の主体性を重視した体育祭・文化祭の生徒肯定率は 85.0%に上昇。（◎）</p> <p>(3) ア・BPT で部活動の活性化に取り組む1年次で少し上昇し、部活動加入率は 49.3%でわずかに届かなかった。（△） ・「部活動に積極的に取り組んでいる」の項目生徒肯定率は 64.0%でわずかに届かなかった。（△）引き続き BPT で部活動の活性化に取り組む。</p> <p>(4) ・「授業などで豊かな心や人の生き方について考える機会がある」の項目生徒肯定率は 73.0% (○)</p> <p>(5) オンラインの設定、接続状態で時間がかかり、「生徒満足度」が測れる質疑応答や質問タイムまで行かなかったため事後アンケートはなし。</p>
3 地域連携と広報活動の充実	<p>(1) 家庭との日常的な信頼関係をつくる</p> <p>(2) 中高連携と関係機関との連携を強める</p>	<p>(1) 家庭との日常的な信頼関係の構築 ア・学校情報の保護者へのスムーズな伝達に努め、保護者の理解と協力を仰ぐ。 ・学校 HP にある PTA 専用のタブや保護者メーリングリストを活用し、授業参観、学校行事、PTA 行事等の保護者向けの情報の発信を迅速に行う。 ・教職員の PTA 活動への参加を促す。</p> <p>(2) 中高連携と関係機関との連携強化 ア・クラブ交流等を通して、地元の中学校との連携を促進する。 イ・中学校教員への出前説明会を広める。 ウ・生徒主体の学校説明会、オープンスクール等の充実。</p>	<p>(1) ア・学校教育自己診断「この学校の授業参観や学校行事に参加したことがある」の項目保護者肯定率 62%以上 （令和元年度 61.0%） ・「教職員は PTA 活動に参加している」の項目教職員肯定率引き続き 45%以上を維持する。（令和元年度 45.2%）</p> <p>(2) ア・クラブ交流等の回数を引き続き 35 件以上を維持する。 （令和元年度 38 回）</p>	<p>(1) ア・HP、PTA 通信により、学校情報の保護者への伝達に力を注いだ。授業参観・学校行事への参加に対する保護者肯定率は 45.0%。（一）※コロナ ・「教職員は PTA 活動に参加している」の項目教職員肯定率は 38.6%。（一）※コロナ</p> <p>(2) ア・交流中止。（一）※コロナ</p>

府立東住吉総合高等学校

	<p>(3) 学校の情報や魅力の発信</p> <p>(4) 地域連携の充実</p>	<p>(3) 学校の情報や魅力の発信</p> <p>ア・令和2年2月にリニューアルしたホームページによる学校の魅力の発信。</p> <ul style="list-style-type: none"> 各分掌に配置した広報担当によるホームページの更新をすすめる、学校情報の迅速な発信を行う。 広報プロジェクトチーム（KPT）を中心に、QRコードを活用した学校情報の発信について検討する。 <p>(4) 地域連携の充実</p> <p>ア・喜連西地域活動協議会に参加し、連携をさらに推し進める。</p> <ul style="list-style-type: none"> 平野区との連携事業「ひらの青春生活応援事業」等に取り組み、平野区長と平野区内府立高校の意見交換会に年2回参加する。 喜連西小サマーキャンプ、喜連西納涼盆踊り黄昏コンサート、地域公開講座、産業交流フェア等へ生徒を参画させ、PTA活動等とともに地域連携を積極的に支援する。 	<p>(3)</p> <p>ア・学校説明会等参加者 600 名以上。</p> <p>(令和元年度参加者延べ 597 名)</p> <p>※10 月学校説明会は台風 19 号のため中止。</p> <p>(4)</p> <p>ア・学校教育自己診断「地域連携」の項目教職員肯定率 85%以上維持。</p> <p>(令和元年度 90.4%)</p>	<p>(3)</p> <p>ア・</p> <ul style="list-style-type: none"> 校長ブログ件数 32 件、緊急連絡 23 件。 KPT を中心に学校紹介 DVD を刷新した。今年度学校説明会等参加者は、677 名。 (◎) <p>(4)</p> <p>ア・地域連携に関する教職員肯定率 82.4%。(一) ※コロナ</p>
<p>4 生徒を支える校内体制の充実</p>	<p>(1) 全校的な指導体制をつくる</p> <p>ア、情報の共有化、見える化</p> <p>イ、労働安全衛生管理体制の充実</p> <p>(2) 個々の生徒への支援体制の強化</p> <p>ア、教育相談体制の充実と各種会議との連携</p> <p>イ、教員力の強化</p>	<p>(1) 全校的な指導体制の構築</p> <p>ア・首席会議、年次主任会、分掌会議を定例化し、分掌業務において、分掌主導で情報を共有し年次間の足並みをそろえた指導をおこなう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 各種会議内での意思決定のあり方、各分掌と学年との連携などを意識し、主体的・能動的に教育活動を行う。 校内共有フォルダに各会議の記録をアップし、全教職員が閲覧できるようにする。 <p>イ・労働安全衛生管理体制の充実</p> <p>(2) 個々の生徒への支援体制の強化</p> <p>ア・高校生活支援カードを活用し、SC と連携して生徒支援体制を実りあるものにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 教育相談委員会を月 1 回開催し、SC の会議への参加を促す。 他校の実践を取り入れ、常駐体制を整備する。 人権侵害事象対策会議、いじめ対策会議等との情報共有を行い、学校全体で生徒を支援する。 遅刻・欠席・いじめ等、生徒の状況については迅速に係者会議等を開催し情報を共有しながら組織として生徒を支援する。 <p>イ・自己と他者を認め合いお互いに協力しあえる雰囲気づくり(生徒間、教職員間、生徒・教職員間ともに)を全教職員が意識する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 経験の少ない教員の学級経営力を高めるために、教務・進路・生徒指導研修やクラスづくり研修等を実施し、教員の資質の向上を図る。 初任者育成チームを結成し、チームで育成する。 学力向上プロジェクトチーム（GPT）等による主体的な研修を計画的に行う。 	<p>(1)</p> <p>ア・学校教育自己診断「各分掌や各学年間の連携が円滑に行われ、有機的に機能している」の項目教職員肯定率 60%以上。</p> <p>(令和元年度 46.8%)</p> <p>イ・時間外勤務月 45 時間以上の職員を 10%減らす。</p> <p>(令和元年度延べ 164.名)</p> <p>(2)</p> <p>ア・中退率 1.0%以下。</p> <p>(令和元年度 6名、0.9%)</p> <ul style="list-style-type: none"> 教育相談に関する生徒肯定率 67%以上。 (令和元年度 66.8%) <p>イ・「教職員間の相互理解がなされ、信頼関係に基づいて教育活動が行われている」の項目の教職員肯定率 70%以上。</p> <p>(令和元年度 56.4%)</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校教育自己診断「経験の少ない教職員を育成する体制がとれている」の項目教職員肯定率 60% (令和元年度 58.0%) 「計画的に研修が実施されている」の項目の教職員肯定率 70%以上維持。 (令和元年度 72.6%) 	<p>(1)</p> <p>ア・首席による各分掌、各年次間の調整と分掌会議・年次主任会議の定例化は定着し、左記項目を意識し取組んだ結果、教職員肯定率は 11.1%増加したが、57.9%と目標値にわずかに届かなかった。 (△)</p> <p>イ・今年度延べ 95 名、42.1%減 (◎) ※コロナ</p> <p>(2)</p> <p>ア・教育相談支援委員会、いじめ対策会議等の各種会議と連携をはかり生徒を支援した。今年度の中退者数は 7 名、1.0%。(◎)</p> <ul style="list-style-type: none"> 「悩みや相談に親身になって応じてくれる先生が多い」の項目の生徒肯定率は 76.1%で 4.2%ポイント増加、教育相談に関する生徒の肯定率は 65.9%、2 項目の平均値は 71.0%。(◎) <p>イ・「教職員間の相互理解・・・」の項目の教職員肯定率は 3.8 ポイント減少し 52.6%となった。 (△)</p> <p>引き続き、教職員の同僚性を高めるための取組みを行っていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> チームによる育成を継続し「経験の少ない教職員を・・・」の項目教職員肯定率は 3.4%ポイント増加し 61.4%となった。(○) GPT やオンライン授業委員会の取組みにより「計画的に研修が実施されている」の項目の教職員肯定率は 11.6 ポイント上昇し 84.2%となった。(◎)